

<p><b>【都市経営研究科提供科目】 研究方法論</b>          ≪2017年度以前は、研究方法論／人権・共生研究方法論Ⅰ≫          ≪2014年度以前入学生は、研究方法論／市民調査論≫          Introduction to research Method</p>	<p>(教員名)          新藤 晴臣、近 勝彦、阿久澤 理子、          小関 珠音、新ヶ江 章友</p>	
<p>都市ビジネス専攻 基礎科目          都市政策専攻 基礎科目</p>	<p>講義科目          1 単位</p>	<p>選択          2018 年度・前期集中</p>
<p><b>I 科目の主題</b>          都市経営研究の主要な研究方法論を、サーベイ研究、経済統計分析などの「客観主義・実証主義アプローチ」と、エスノグラフィーやアクションリサーチ、ディスコース分析などの「社会構成主義・解釈主義アプローチ」に大別し、それらの研究倫理上の課題を含め講義形式で概説し、受講者が多様な研究方法論・アプローチに基づく都市経営関連研究を適切に評価すると共に、自らの研究目的に適した研究方法論・アプローチを選択するための基礎知識を提供する。</p>		
<p><b>II 授業の到達目標</b>          本講義では、論文作成における留意点や研究方法の基礎的要素を、企業・産業経済分析の事例を取り上げながら具体的に概説する。それを通じて、各自が抱える研究上のテーマ・課題を論理的・実証的に分析・検討する基礎的な考え方や研究の方法を理解し体得することを到達目標とする。</p>		
<p><b>III 授業内容・授業計画</b>          第1回～第3回 近 勝彦          研究方法の概論を講義する。より具体的には、定量分析および定性分析の特徴とその併用の意義を考える。さらにはビッグデータの利用に関してテキストマイニングの重要性が増しているのでメタファー分析の意義と課題を考える。これらを通じて、新しい研究手法の意義を学ぶ。          第4回～第6回 阿久澤 麻理子          社会の Well-being のとらえ方の変化とともに、社会調査の方法も変遷する。トリクル・ダウンから、従属理論、ベーシック・ヒューマン・ニーズ、参加とエンパワメントなどの概念が、調査方法にどのような影響を与えてきたのかを学ぶ。また、とくに近年注目されてきた参加型調査法の手法を学ぶ。          第7回～第9回 新藤 晴臣          研究者が調査対象の問題を解決しつつ調査を行う「アクションリサーチ」を中心に講義を行う。アクションリサーチは、濃密なデータを入手できるというメリットがある反面、研究方法としての課題も存在する。それらを理解しつつ、具体的な調査を進める方法について学んでいく。          第10回～第12回 小関 珠音          定性的研究について、具体例を示しながら論じる。より具体的には、インタビューの方法やメタファー分析の可能性と課題を論じる。          第13回～第15回 新ヶ江 章友          エスノグラフィー、ディスコース分析について講義する。エスノグラフィーについては、文化について書くということがどのような行為かについて、近年の文化人類学による民族誌的危機にも触れながら学ぶ。ディスコース分析については、社会学による構築主義の議論について触れながら学ぶ。</p>		
<p><b>IV 事前・事後の学習内容</b>          授業前には関連するトピックを自分で読んでおくほか、授業後には出された課題を行うほか、各自の研究での応用について、具体的に考えることが望ましい。</p>		
<p><b>V 評価方法</b>          ①授業内の議論・小テスト=50 点、②レポート=50 点 の総合評価とする。</p>		
<p><b>VI 受講生へのコメント</b>          修了論文などの自分の持つ課題とリンクさせて学び、考えることが求められる。また書籍、新聞、雑誌などを通じ、新潮流に乗る企業、イノベーション企業などについて、授業の他に各自で学ぶことが望ましい。</p>		
<p><b>VII 教材</b>          授業内で別途指示する。</p>		